

<理科> 4年

「大田区学習効果測定」結果の分析

全国の平均正答率と比べると、1.8ポイント下回った。基礎では、2.8ポイント、活用では、1.2ポイント下回っている。

- ・「植物の育ち方」では、花を咲かせた後の植物の様子について理解できていない児童がいた。
- ・「じしゃくのせいしつ」では、棒磁石についての基礎的な知識が理解できていない児童がいた。

重点課題

<知識及び技能>

- ・花が咲いた後の様子について理解していない様子が見られるため、花が咲いて終わりではなく、実や種ができて次につながっていくことを理解することが課題である。また、季節・時間・気温と関係づけて問題解決をすることが課題である。
- ・「光のせいしつ」や「じしゃくのせいしつ」について、確かな知識・理解の定着を図ることが課題である。物質の性質や特徴などについての理解を定着させる必要がある。

<思考力、表現力、判断力等>

- ・動物の活動や植物の成長、太陽の動き・天気のようにすなどを、季節・時間・気温と関係づけ、予想を立てながら観察したり、自らの気付きをもとに問題解決をしたりすることが課題である。
- ・自然の事物や現象の変化は何と関係しているのかを、既習事項や生活体験から推測して考える力を育てることが課題である。
- ・課題を解決するために、どのような実験や観察が必要なのかを考え、目的に沿った実験を行い、自分の言葉で結果や考察を記録することが課題である。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・様々な事象に興味・関心をもち、進んで調べようとする意欲をもつこと、そして、調べ方を考え、最後まで追究する態度を育てることが課題である。特に、動物の活動や植物の成長を、視点を明確にして季節と関係づけながら、観察を継続させることが課題である。

授業改善策

<知識及び技能>

- ・実際に植物を育てる活動を通して、気付いたことや発見したことを目で確認して学習が進められるように工夫する。観察する機会を増やしていく。
- ・以前学習した季節について思い出せるように、今までの動植物の様子が分かる写真などを提示し、変化を分かりやすくしたり振り返ったりできるようにする。
- ・観察や実験を基にして、学習内容を確認・整理・習熟できるようにする。体験から知識の定着を図っていく。
- ・スキルアップタイムを使って、ドリルパークなどのタブレット学習やプリント学習に取り組む時間を作ったり、視聴覚教材を使用したりして、基本用語や物質の性質などについての知識の定着を図る。

<思考力、表現力、判断力等>

- ・自然の事物・現象の変化には何がどう関係するのかを考えさせながら、見通しをもって問題解決を行わせる。
- ・それまでに学習したこととの変化や違いに着目させることを意識し、そこから思考を深められるような授業展開を行っていく。
- ・児童の生活体験や既習事項との関連を考慮し、実感をともなって理解できるよう、授業展開や学習活動を工夫する。また、個人でじっくり考える時間やグループで話し合う時間を十分に取って、自分の考えを表現できる機会を増やしていく。
- ・実験の中から、一人一人の気付きを大切に授業の中で拾い上げ、自らの疑問や課題を追究できるような授業展開を工夫する。
- ・児童の思考力が一層深まり、観察・実験の結果を整理・考察して表現できるよう、ノートやワークシートの記入方法を指導する。

<学びに向かう力、人間性等>

- ・体験の中での気付きや発見から学習を進めていくことができるように、学校生活全般の中で、疑問を見付けたり、様々な事象を意識させたりしていく。
- ・直接見られない事象については、積極的に ICT 教材を活用していく。
- ・自主学习などでさらに詳しく調べるなど、自ら学んでいく姿勢を称賛し、認めていく。